

蚕糸業の進路.....	1
南米へ養蚕農村設置構想...	3
蚕糸・繊維化学の最近の研究.....	5
サロソ.....	7
母校だより.....	9

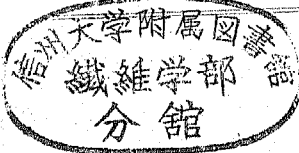
千曲會報

1957年9月1日

昭和32年9月1日発行

長野県上田市啓入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円



蚕糸業の進路

二宮正

1. はしがき

蚕糸業を斜陽産業と見る人々の根拠は二つに分けることができると思われる。

一、は蚕糸業の現在の規模を戦前の最盛時に比較して繭生産額において戦前の1億7千万貫が現在3千万貫、生糸70万俵が30万俵に減少しているのを促して斜陽産業と決めつける見方であり、

二、は蚕糸業の経済の主たる担当者である製糸業の不振、就中大手メーカー、片倉製糸の経営不振を促して没落産業と見る見方である。

そして両者共に蚕糸業が斜陽産業と化したのは繊維にその需要を蚕食されてしまったからであるとしている。

第一の見解に対して吾々は戦後の蚕糸業を戦前と対比することには疑問をもつのであつて蚕糸業が発展しているのか衰退しているのかということは戦後を出発点として論じなくてはならないと思う。何となれば戦前における蚕糸業の縮少は第二次大戦を契機としてその発展が人為的に阻止されたのであつて決して産業としての行き詰りではなかつたからである。昭和22年における繭の生産と生糸生産高は夫々1430貫、12万2千俵であつたが、昭和31年には繭の生産と生糸生産高は夫々2880万貫及び31万俵に達している。戦後の蚕糸業はこのような大きく躍進しているのである。

云うまでもなく蚕糸業の基礎は繭の生産にあるが第1表によつて明らかなことは繭生産の伸びは他作物のそれに比して劣るものではない。その総価額は400~500億円に達するが繭の商品化率が100%であることを考えると農家経済に占めるウエイトが決して少くないことを知ることができよう。

第1表 農業粗生産額(単位100万円)

	米	麦	雑穀	豆類	いも類	野菜	果実
昭25	364,558	80,461	7,788	32,396	64,644	50,907	27,350
#29	599,231	143,151	11,120	49,419	85,145	94,105	51,461
	工業作物	繭	畜産物	薬工品	合計		
昭25	34,892	20,905	54,493	4,057	742,451		
#29	67,445	41,349	137,433	6,714	1,286,573		

第二の見解については私は次のように考える。

片倉を中心とする製糸大資本が戦前において我国企業の代

表として産業界に君臨し、蚕糸業の改良進歩に対して常に主導性を保ち大きな貢献をしたことは人々の広く知るところである。然るに最近における片倉製糸の経営不振が恰も蚕糸業の没落の表徴であるかの如くジャーナリズムでは扱つておるが、あの巨大な赤字は製糸業による損失ではないことに吾々は注意しなくてはならぬ。現に再建の道を歩む同社が昨年の決算では黒字を出しているのであつて片倉の不振と製糸業の衰退とは別に考えなくてはならない。

一般的に云えば戦後の製糸業は生糸需要分野の変化によつて——戦前における大製糸が米国婦人靴下用の高級格細糸を独占することによつて多額の値鞘を獲得し得たのに対し——戦後の生糸需要が織物分野に限られることとなつたのに対応して中小製糸就中座繰製糸が進出するようになった。製糸業が不振であることはその生産した生糸が売れないからではなく、割高な原料繭を購入しているからである。その理由は結局製糸業内部にある。換言すれば生糸需要の変化に伴つて低コストの座繰製糸が有力な競争相手として出現したからである。云うなれば製糸業の現況はその担当者として如何なる形態が適当なのか、自動繰糸機を中核とする近代化工場か、座繰製糸業者か、又は組合製糸か、それら業者間の競争と見るべきであろう。最近の機械製糸業者の損益の状況を見ると利益を計上するものと損失を計上するものは相半ばし、約2割に上る業者は資本構成も優れておりその業績は大いに上つているが他方約2割の業者は既に自己資本を食い潰して倒産前状態にある。このように製糸業の構造変動に対処しようものと、対処し得ないものとの差が逐次明白になりつつある。

2. 蚕糸業振興に対する諸家の見解

蚕糸業を振興するために如何なる考え方が提唱されておるかについて見ると、諸家の案には大別して2つの方向があるように思う。

一、は蚕糸業を制度的な面から抜本的な検討を加えるという考え方である。その代表的なものに米村武夫氏の蚕糸業公営論がある。(註1) その他全養連の時局対策委員会決定の振興策。(註2) 日本蚕糸振興会議時局対策決議。(註3) も主たる狙いを制度的な面においている。

又この中にも米村氏の蚕糸業公営論は生糸より絹織物を中心に考えておるといふ点で後二者とは目的を別にしてい

二、は蚕糸業の技術的な面の革新によつて需要を開拓しようという考え方である。

こういう考え方をとる人も少くないが、その意見が公に発

表されたものは少いが、私の目に止つた二、三のものをあげると例えば猪坂直一氏は撚糸輸出の提唱(註4) 富岡秀氏はケーク巻の完成(註5) 武藤糸治氏は絹と他繊維との交織、デザインの研究(註6) を説かれている。

蚕糸業の振興を法律や制度を新しく作ることによつて行くという考え方には私は賛成ではない。如何に立派な制度や法律があつたところでそれが守られないようなものならば無意味であり、経済的必然性のあるものを法律や制度で縛らうとしても所詮無理である。座繰製糸の生産がぐんぐん伸びてきたのはコスト安という経済性の故である。これと競争する機械製糸の対抗策は先づコストにおいて座繰製糸と対抗することが先決である。こういう根本的なことに触れないで制度や法律によつて問題を解決しようとしても無理であると思ふ。同様なことは養蚕団体の悩みである養蚕農家による繭の振売りについても云える。養蚕団体を形成している組合員が団体協約を破棄して繭の振売りをを行うのも経済的に有利であると農家が判断するからである。これを法律によつて縛らうという考え方は間違つている。つまり団体(農協)が組合員たる養蚕農家と遊離しているからこういう問題がおこるのである。農民にとって団体が必要欠くべからざるものであるならば、かゝる振売りということは起らない筈である。問題はむしろ法律によつて農民を拘束することではなく、農協の実力をつけることであり、それは生産技術の面において農協と農民がしつかりと結び付くことである。

第二の考え方、蚕糸業の技術的な革新は問題の本質を突いていると私は考える。仮に業界待望の蚕糸公社ができたとしても機屋の要望している品質の生糸が出来る保証はないし、アメリカ市場の要望するケーク巻が完成する保証もない。とすれば蚕糸公社はできて輸出は増大せず養蚕と製糸両方から狭撃される政府が財政的に行きづまってしまうであらうことは明らかである。生糸の需要者が求めているものは使い良い生糸への改善である。その要望に応えるものはケーク巻であり、織度偏差の少ない生糸を作ることであり、生糸のアフターサービスの実施である。

私は蚕糸業を發展させる問題の本質は生糸及び絹織物に関する技術の革新にあると思ふ。制度的な問題はその本質を發展させるための助力にすぎないのである。制度的な問題は大層威勢が良いし人の種ですもうをとる類で誰も反対しない。而しそれが何故実現困難であるのかということ吾々は三省する必要がある。かつて糸価が安定すれば生糸の輸出は大いに躍進すると多くの人々は考え又期待したが、糸価が安定した今日において果して何うであつたか、糸価安定の効果は少ないがそれは万能の対策ではなかつたのである。法律や制度に多くの期待をかける人々はこの事実をよく顧みる必要があらう。

3. 蚕糸業の進路

武藤糸治氏は最近朝日新聞紙上で絹の在り方、将来について極めて注目すべき見解を發表されている。(註6)

——人間社会においても、一人一人異つた個性が、調和し融合してこそ、より高い文化が築かれて行くのと同様、繊維の世界でも絹と化繊をカタキ同士に扱わず、古い繊維を排斥しないで、例えば絹とデイクロンを結び絹とナイロンを合せ、あらゆる繊維の個性を生かしてこそ、國際的にも比類のないものが生れるのです。絹の時代はもう過ぎた、とよく言われ

るところが現在、欧米の一流店の最高の品はやつぱり絹、ということになつて来て、男性まで服地、スポーツシャツと絹を着始めました。パリのデュオールも、今後は絹で行くという線を出しております。イタリアでも、生糸を加工し、デザイン、染色の面に新しいお化粧を施して、日本の5倍もの値で売出してあります。(中略)

もともとたぶわたを買つて繊維にして飛び出させるだけの乱産ではダメなんで、最大最高の問題点はデザイン、殊に色彩。この「色の問題」がいままで忘れられていました。日本にも色はある。古代の能衣装にしる、カスリにしる多くの学ぶべき豊かな遺産がある。今後の私の大仕事は、それらの豊富な「日本の美術」をいかにして企業と結びつけ「質」の世界的進出をはかるか、これです。そのためには知恵、センスのすぐれた人物を育てねばならない。(後略)

こゝに私は蚕糸業の進路があると思ふ。

4. 結 び

日本の絹業がイタリアのそれの如く世界市場に確固たる地位を占めるのは果していつの日か予測することはできないが、それは不可能なことではないと私は考える。既に武藤氏の鐘紡はそのような考え方を實現するために進んでいるように思われる。

現在の蚕糸業界にとって最も必要なことは創意と工夫である。一例を生産面について之を見るならば養蚕経営の合理化は他の商業的農業、例えば果樹作と比べて遅れていることは多くの學者が指摘するところである。養蚕経営を合理化してその生産性を高めることは養蚕業の發展にとって不可欠なことであるが、これには二つの方向があると思ふ。一つは云う迄もなく反収増加と労働生産性の向上を並行して労働報酬の水準を引上げること(現在の労働報酬平均200~300円を500~600円に)であり、所謂多収種養蚕の普及である。他の一つは未墾地の開拓による新しい養蚕経営の道を切り拓くことである。養蚕業が青年層から疎んじられる大きな原因はその経営技術の非近代性にあるのだから、養蚕業の機械化による近代化の方策は十分に検討する必要があると思ふ。製糸業についても同様である。私は最近ある大製糸の研究所を視察して製糸業の合理化——オートメーション化が決して夢ではなく實現間近のことに意を強めた。これが完成すれば座繰製糸は問題にならないであらう。その時において始めて大資本はその威力を發揮することができると思ふ。こゝに製糸業の進路がある。蚕糸業の進路は関係者の創意と工夫によつて切り拓くことができる。

註1、米村 武夫、蚕糸業公営論

蚕糸会報 32年1月号 26~40頁

註2、全養連の時局対策委員会決定の振興策

蚕糸界報 32年1月号 73頁

註3、日本蚕糸振興会議時局対策決議

蚕糸界報 32年1月号 75頁

註4、猪坂直一 撚糸輸出の提唱

蚕糸界報 32年1月号 51~54頁

註5、富岡秀 帰国報告会における講演

註6、武藤糸治 朝日新聞 32年7年16日夕刊

好きなもの⑩「繊維のシンフォニー」

註7、政府の立場から書かれたものであるが、大戸元長著「蚕糸業の現状と将来」農林協会発行 31.11月 63頁は蚕糸業の現状と将来について要領よくまとめている。

(蚕32)

南米へ養蚕農村と蚕絲研究所とを 設置することの構想 (その4)

碓 氷 茂

8. 呼寄移民と計画移民

ただいま南米へ移住するものの中には、無資産のものもあれば資産のあるものもあります。

農業移民の場合ですと無資産のものは呼寄移民(よびよせいみん)として移住するのが普通です。南米の現地にいる人から呼寄せてもらって入植するものです。この場合には渡航費は日本政府から貸してくれます。現地へ到着すると、呼寄せてくれた人の家へ行つて貸し与えられた家で生活しながらその家で働くのです。ですからこの方法で移住すれば小使銭(自宅出発から船中並びに南米へ到着してから向うで使う)を持つて行きさえすればいい、ということになります。

いままでブラジルのコーヒー園で働く農業労働者(コロノ)として移民した日本人の殆んどはこの呼寄移民でありました。

最近ブラジル国にあるコチア産業組合が呼寄せている青年移民もこの呼寄せによる移民です。

ここでちよつとコチア産業組合について触れておきますが、ただいまブラジルにある産業組合中最も多く組合員を持ち、また最も優れた成績を持つている組合がコチア産業組合です。5000人の組合員があつてその6割が日本人です。もつともこの組合はサン・パウロ州のコチアというところへ移住した日本人農家82戸によつて結成されたものでありまして、だんだん組合員を増加して、今日の状態まで発展したのであります。現在出資金が5億円というのですから巨大なものです。この組合の事務所がサン・パウロ市にあります。

この組合事務所が中心になつて、日本内地から独身青年(満18才から25才まで)を呼寄せ、組合員の家へ配属いたします。するとこれら青年は配属された農家で働きます。そして4年間たてば契約期間が完了して、あとは独立というわけです。もちろんコチアの青年移民が独立するに際してはコチア産業組合が極力心配してくれることになつていきます。

コチアの青年移民が渡航するときにも船賃を日本政府が貸してくれます。ですから青年は小使銭を持つて行けばいいことになつていきます。

なほブラジル国のサン・パウロ市にあるパウリスタ養蚕協会が中心になつて呼寄せている養蚕移民も呼寄移民でありまして、これとても小使銭があれば移民可能であります(渡航費は日本政府が貸してくれます)。

以上呼寄移民の特徴は資金を必要としないことでありまして無資産のものの移住には最も容易な移住方法であります。

しかし南米で成功するためには、やつぱりある程度の資金を持つて行つた方が早道であることは申すまでもありません。

そこで、資金を持つて行く移住方法、すなわち有資産者の移住方法について述べて見ます。

資金を持つて行く移住方法にもいろいろあります。例えば

南米の既墾地を買取して、自ら農業経営を行う場合もあれば、未墾の広野を買取して、伐木・開墾の過程を経て立派な独立農となる場合もあります。

あるいは計画移民といわれている、パラグアイ国フラムの移住地や、ヴォリビヤのサンタ・クルス市附近へ入植する場合のようなものもあります。

すでに述べた通り、パラグアイ国フラムへ入植するためには、渡航費は日本政府が貸してくれますが、土地の分譲代金(土地購入代金)・営農費・生産のあがるまでの生活費など合せれば約30万円が必要です。なほこの場合には、入植する人は25町歩の大森林(森林下の土壌が最も優秀です)の分譲を受け、伐木・開墾から始めるのでありまして、最初から独立農家として出発するのです。

ヴォリビヤ国へ入植するためには、約18万円の金を準備しなければなりません。パラグアイの場合とはちがひ、ここでは30町歩の土地をヴォリビヤ政府がただしてくれます。この土地の開墾費・営農費・生産のあがるまでの生産費が最低18万円必要だということです。ですから計画移民、あるいは最初から独立農となるためには、相当多額の資金の必要であるはいうまでもありません。

9 養蚕農村の建設と開拓農業協同組合

さて養蚕農村の建設の場合ですが、もちろんこれは、計画移民村の設定ですから、相当の資金を必要とします。

この資金をどうするかについては、既に述べて来た通りですが、最近開拓農業協同組合(開拓農協)なるものが結成されつゝありまして、いよいよこの開拓農協が活動を開始しようとしています。

この開拓農協の将来をわたくしは興味をもつて見守つていますが、養蚕農村建設に是非一役買つていただきたいと思ふ次第です。

そこで先づ開拓農協とはどんなものかについて説明いたします。

この組合の目的は、海外へ多数の農業開拓者を送出し、これら開拓者をして立派な独立農家として仕立てることです。

この目的達成のために資金的措置をしたり、開拓者の募集・監衛に當つたりします。現地に於ては移住地建設のためのあらゆる努力をほらいます。

次に開拓農協結成の準備のべれば次のようです。

御承知の通り、日本内地の各町村には農業協同組合法に基いて結成された農業協同組合があります。この町村に結成されている農協がそれぞれ総会を開いて開拓事業を行うことの決議をします。それから町村の農業協同組合が府県単位の開拓農業協同組合連合会を結成します。さらに府県単位の農協連が全国組織の全国開拓農業協同組合連合会(全拓連)を結成します。そしてこれら各開拓農協が一連の組織の下に海外への開拓事業を推進するのです。

以上開拓農協の説明をいたしました、すでに日本内地には府県単位の開拓農協連が沢山結成され、全国組織の連合会も結成済みです。そしていよいよ活動を開始しようといふところへ来ています。今年の5月30日には長野県開拓農業協同組合連合会が結成されましたし、群馬開拓農業協同組合連合会も7月22日に結成されました。このようにしてこの開拓農協の組織網は全国的に張りめぐらされることになりました。

わたくしはこの開拓農協と養蚕農村の建設とを結びつけたらどんなものかと思つてます。すなわち南米への養蚕農村を建設するための、移住者の送出・資金の調達・土地の買収などの基礎的な仕事を開拓農協に引き受けてもらい、養蚕研究所の設定に関する一切と、現地においての養蚕農村建設指導とを千曲会が受け持つのです。

つぎに養蚕農村の一員たる養蚕農家の選定ですが、いふまでもなく養蚕に経験あるものを第一とします。養蚕飼育の経験を持つていれば、渡航してから、直ちに養蚕飼育が可能だからであります。しかしこれは絶対的な必要条件ではありません、しつかりした開拓意欲の逞ましい人物なら、必ずしも養蚕の経験を持つていなくとも大丈夫です。このことはすでにブラジルへ送つた養蚕移民の実情から見て明らかです。現在ブラジルへ渡つている養蚕移民中には、養蚕の経験の全然ないものが半数います。この半数の諸君は全然養蚕の経験を持つていないのですが、それでも結構養蚕をやつています。むしろ内地でへたな養蚕の経験をもつているものよりも優秀なものが沢山います。ですから内地で養蚕をやつた経験のあるものという条件は決して絶対的な必要条件ではありません。

次に募集の範囲ですが、全国地域から募集してもさしつかえありませんが、例えば長野県・群馬県あるいはその他養蚕業の盛んな地方から集中的に募集することも面白いではないでしょうか。例えば長野県で何名、群馬県で何名というように、それぞれ責任数を府県の開拓農協連が、受持つて送出するという方法をとつたならどんなものでしょう。もちろん千曲会員も各府県から応募して出て来るのです。そして自らも養蚕移民として南米へ土地を所有して養蚕飼育に専念します。出来れば千曲会員が各部落へ分散して居をかまえて、新しい養蚕農村の建設を部落の内部から盛りたてて行くという行き方にしたいものです。つまり千曲会員は村造りの中心者となるわけです。

以上は千曲会の会員が村造りの面から協力する態度を述べたのでありますが、次に千曲会員のなすべき他の専門の仕事についてその構想を述べて見ます。

すでに前月号で書きましたように、千曲会では、養蚕農村の中央に一定の土地を選定して買収します。この土地代はいふまでもなく千曲会の持つ資金で支払います。従つて所有権は千曲会そのものにあるわけです。南米に土地を所有するといふことは一面からいえば、土地投資ともなるわけでありまして、南米へ土地を持つたからといつて、決してそれだけの金を消費してしまふわけではなく、立派な財産を南米の現地へ持つたということになります。南米に於ての土地価格は、

将来昇騰すること必然でありますから、仮りに千曲会で将来その土地を売却するとすれば、相当の金を手にすることが出来るわけです。この意味で、将来性ある南米へ土地を持つ(土地投資)ということは非常に面白いことと思ひます。

この土地へはこれもすでに書きましたように養蚕研究所を設置します。そしてこの研究所で、新しい南米の養蚕の研究をもりもりいたします。それこそ日本内地で研究に研究を重ねていた学究にとつてはもつて来いの活躍舞台だと確信いたします。桑の研究・蚕病の研究・養蚕飼育の研究・何でも新しい研究がもりもりやれます。面白いではありませんか。

なほこの研究所には蚕種製造所を附設し、すばらしく優秀な蚕種の製造をしてこれを養蚕家に配布します。もつともこの養蚕農村への配布量だけでは大したものではありませんから、これを南米の養蚕地帯へ販売することも方法だと思ひます。おそらくこの研究所で製造した蚕種は、南米で最も優秀であるに相違ありませんから、蚕種の販売に困難をするようなことはありませんまい。

さらに進んで千曲会の仕事として製糸工場を直営したらどんなものでしょう。ただいま日本で製作される最優秀の、すばらしい自動繰糸機を備えつけて繰糸したらどんな立派な生糸が生産されることでしょうか。わたくしがブラジルで見て来た製糸工場の設備は極めて貧弱でお話にならない原始的なものであります。それでも数々製糸事業を経営しているのです。こういう南米へ最新式の繰糸機械を設置したならば、経済的にも必ず優秀な成績をあげることが出来ると思ひます。また千曲会には製糸の優れた学究がいることでありますから最優秀の生糸を製造することは決して不可能なことではありません。

さて養蚕研究所の設置費用ですが、千曲会に資金が潤沢なら他をわずらわすことなく設置することが望ましいですが、不足の場合には、日本人の海外移住のための唯一の金融機関として、特別法によつて誕生した日本海外移住振興株式会社から融資を受けるのが一番いいでしょう。養蚕製造所や製糸工場を設置する場合には多額の資金を必要としますから、この日本海外移住振興株式会社からの融資は避けられないことと思ひます。

なほ養蚕研究所の研究員や蚕種製造所の係りの人々や製糸工場経営者、技術者などと養蚕農村の養蚕家との関係ですがこれは養蚕農家出身者をこれに当てることを原則としたいと思ひます。つまり各人が皆土地と家屋とを所有して、家族あるものはその家族をして農業経営を行わしめ、本人は研究所へつとめるという方法を採用したいのです。そうすれば研究員に見れば、給料ばかりをあてにする心配が少ないから、本人も安心であるし、研究所自体としても、必ずしも多額の給料を支払ふ必要がないという安全性があります。(もつとも研究所の経済基礎が確立した際には相当多額の給料を支出してさしつかえありませんが) こういう意味からすれば、千曲会員は、多数この計画に参加し、その家族もなるべく沢山連れて行くことが望ましいわけでありませぬ。

蚕糸・繊維化学の最近の研究

— 書評と抄録 —

昆虫学本論

八木誠政博士著, A 5, pp. 493, ¥750, 養賢堂(東京・文京・森川町70)

学問の諸分野にはそれぞれ有名な「よりどころになる本」があるものである。昆虫学のそれは英語ではフォルソム氏やイムズ氏のもの、ドイツ語ではシュレーダー氏のものと古くから大体相場が決つていた。また日本語では三宅恒方氏の「昆虫学汎論」上下が基礎的な書物としての声価をほしいままにし、これらであきたらぬ者はさらにウィグルスワース氏の「昆虫生理学」、スノドグラス氏の「昆虫形態学」のページを開くならわしであつた。最近ローダー氏が編集した「昆虫生理学」は新しさと深さではピカ一であるが、統一に欠くるところがあるのがうらみである。

三宅博士以後日本には「よりどころになる」昆虫の本がなく、いたずらに古書の市価を高めるに過ぎなかつたのだが、こんど八木先生の著わした上記の書物はまさにその「よりどころ」を与えたといつてさしつかえなからう。1957年初めのデータをもちこんだ新しさに加え、なによりの強みはいたるところに自身の経験と業績と意見が挿入されていることである。そしてまたシステムティックであることである。これで昆虫を学ぶ者はウィグルスワース(¥4,000)や、スノドグラス(¥3,000)や、ローダー(¥6,000)をむりに買う必要がなくなつたわけである。こう考えれば500ページ¥750は決して高いものではなく、側らで先生の努力ぶりを見ていた私からいえば、安すぎる値段といたい(この本は400語原稿用紙1メートルの高さから生まれた)。そのご努力と旺盛な精神力は若い私たちのもつとも敬意を表してよいところである。もちろん偏端な知識の者や、不漸の勉強のない者には到底著書は物しえないが、加えてこれだけの大著となれば体力的に恵まれる必要があり、その点60才を越した先生の健康度が若々しいことを示すものとして慶賀にたえない。

挿図はわかりやすく、印刷も鮮明、9ポ組でよみやすい。文章は達意で風格があるが、ただ少し堅がるしい表現や熟語や誤植が散見されるのは難点といえはいいえである。それらはこの大著の価値の根底にふれるものではなく、また先生自身改訂の要をみとめているので次第に完璧に近づくとと思われる。

内容の程度は教員、大学生以上で、高校生にはむずかしすぎよう。読者にとっては末尾の索引がよく昆虫学辞典の役目もするので、きわめて便利である。とにかく生物学を舞台としておられる方々は書架にぜひこの一本を備えたいものである。

(小山)

流体力学

(1) "Flow of Gases Through Porous Media" (By P. C. Carman, Butterworth, London 1956, p. 180, ¥1,800)

Muskatの本(千曲会報61号で紹介)に次ぎ多孔体中の流体力学に関する二番目の総説書。著者 P. C. Carman は現在南アフリカ連邦に籍を置く人で、粉体径測定についての世界的権威である

Muskatの本が油田を中心とした流体に関する数学的記述を主目的としておるのに対し、本書は主として多孔組織の分析に主眼を置いている。流れに関する基礎方程式の紹介からはじまり、ダルシー、コゼニエらの多孔組織の考え方とそれに対するいくつかの検討が詳述され、更に粘性流動・拡散流動・吸収・取着等の化学工学分野の叙述に及んでいる。

多孔組織の研究は元來孔径の推定に目的があつて、均一球より成る粉体の直径の測定などに応用されるものであり、これらに関する理論的・実験的な記述も多く、不均一媒体の場合に就いてもいくつかの拡張事例が紹介されている。また多孔度が連続的に変えられるということから、繊維の充填層の研究が、エマースレーマン以来サリバン、ハーテル、ロードらによつて行われてきたが、このようなエアロメーターやマイクロネヤーの原理となる基礎的な考え方の説明は特に詳しい。なかんずく不均同性性についての理論はマイクロネヤーによる棉花の成熟度測定(コースティケヤ法)の原理を理解するのに役立つと思う。

その他織物の通気性に関するロバートソンや落下傘に関するゴグリヤの研究も紹介されている。また拡散流動に関する記述は織物の水蒸気透過(雨衣やブツ靴の)現象や、製糸における煮繭時の理論的吸水量の計算に役立つと思われるが、この種の問題で最も困難な偏微分方程式と境界値問題についてふれていないのはヘザリントンやアロノフスキーらの文献を入手できない我々にとっては残念である。化学工業や繊維試験にたずさわる人は勿論、ニューマヒルやバキュームストリッパー等の空気機械を多く使うようになった紡績関係者にも一読をおすすめする。

(2) "The Measurement of Particle Size in Very Fine Powders", (By H. E. Rose, Constable, London, p. 127, 1954, ¥495)

これは流体力学の本ではないが、最近特に化学工業・塗料方面で重要視されている粉体径測定に関する小冊子である。粉体径、形状及びその分布の測定には直接的な電子顕微鏡によるもの、他、間接的なX線小角散乱法・通気通水法などがあるが、本書では更に photo extinction method、塗素吸収法等いくつか述べられている。

尚より詳しい類書としては P. D. Cadle の本 (Particle Size Determination ¥2,200) があるが、未だ入手してないので次の機会に紹介する。又 Orr の本も今秋アメリカで刊行される。

(3) "Viscous Flow Theory I, Laminar Flow" (By Shih-I Pai, Macmillan, London, p. 384, 1956, ¥3,000)

流体の粘性理論の研究はストークス、オゼーンにはじまり一方では今世紀のはじめアインシュタイン、ジェフェリーらによつて粘性の物性論的解析が試みられ、高分子科学の発達と共にカーウッド、フローリーらによつて高分子溶液の粘性理論の解析にまで進んでいるが、他方では航空力学の要請で巨視的な立場から粘性流動の解析が進められてきた。

従来わが邦では粘性流動に関する単行本は比較的少なく、戦時中ニューラーの本が非公式に翻訳出版されたに過なかつ

た(最近岩波講座の現代応用数学の第四巻に谷一郎氏の著書が出た)。従つて今度の出版を大いに期待するものである。本書の著者S.I. Pai 博士はメリーランド大学の流体力学・応用数学の教授で斯学の権威である。本書では初に気体の物理的性質を概説し、粘性・圧縮性流動の基礎方程式を誘導し、更にこれらの式の解法を、特に超緩速運動と境界層流動について詳述している。境界層に関する記述は特に詳しく最近の諸成果が数多く紹介されている。

尙本書の翻刻版がG. Birkhoff著“Hydrodynamics, A Study in Logic, Fact and Similitude”と合本で非公式に刊行されている。この方は¥800。

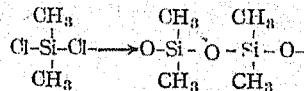
この本の第2巻が最近米国のVan Nostrandで刊行された。内容はTurbulent Flowで276頁、¥2,700。

(繊維物理学教室篠原)

シリコンの繊維への応用

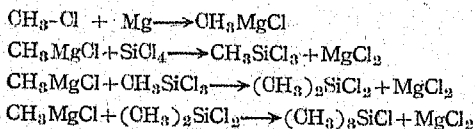
シリコンは合成樹脂であつてかつ最も新しく造られたものの一つである。それは耐熱性の高いこと、耐水性の優秀なことを特長とする。化学組成的にシリコンを見れば石英、雲母などと同様に、-Si-O-Si-なるポリシロキサン結合を分子の骨格構造に有している。-Si-O-Si-結合が高温でも分裂しないのはSi-Oの結合エネルギー(89.3kcal/mol)がC-Cのそれ(58.6kcal/mol)よりも著しく大きいことから容易に想像しうる。

シリコンはクロロシランを加水分解と重縮合によつて製造される。

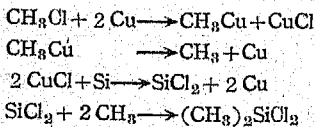


クロロシランは一般に次の2法によつて造られる。その一つはグリニアル反応の応用である。

すなわち



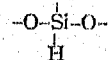
他の一つはRochowによる反応で金属珪素から直接につくる方法である。



この方法はグリニアル法より簡単であるが融通性がなく、メチルおよびフェニルクロロシラン製造には好適であるが他のものは高温の反応に不安定であるため香ばしくない。しかし幸いにもメチルおよびフェニル誘導体は利用面が広いのでこの方法の価値がある。

シリコンは耐熱性を有する外、耐酸化性・耐水性・耐油性・撥水性・耐化学薬品性などの性質がありかつ電気絶縁性があり、広範囲の温度に粘度変化小さく、また広範囲の周波数に対して低い誘導率を示す。シリコンを繊維に應用するには普通油状物を用いるが、これは縮合を起す単量体の官能基の数、縮合条件および導入する基の種類によつて油状物・ゴム状物・グリース・ワニス・ゴムパウンドおよび樹脂など各種のものが得られる。そこで油状シリコン(繊維状構造を有するジメチルシロキサンポリマーのエマルジョン)をマングル

によつて繊維に附着せしめ、次いで乾燥し、150°Cで5~7分間ベイキングする。この際樹脂を繊維に化合せしめるためにジルコニウムオキシクロリドを混合しておく。これは繊維とあるいは樹脂相互間に架橋結合を生成せしめる役割をする。150°C以下であつたり時間が短か過ぎれば洗濯およびドライクリーニングに対する耐久性が劣る。シリコンエマルジョン法はナイロン・テリレン・アセテートおよびビスコースに適當であるが、前2者に対しては200°C、30秒ベイキングするのがよい。ビスコースは尿素樹脂と併用して防縮性を高めるによく、この場合1浴でもできる。尿素樹脂の硬化には普通磷酸塩が使われるがこの場合はジルコニウムと反応して沈澱を生じ、防縮性もシリコンの樹脂化も充分でない。磷酸塩の代りにチオシアン酸アンモンを用いられればよい。木綿布の処理にジルコニウムオキシクロリドを使えば生成する酸により脆化するのを、モノメチルシリコン(CH₃)₂Siを用い触媒に



は亜鉛あるいは錫のナフテネートあるいはオクテートを用いる。上記の諸法によればドライクリーニングや洗濯に対して高い耐久性を示し、ドライクリーニング、0.5%石鹼および0.5%ソーダ90°C、30分処理をそれぞれ5回繰返しても防水性は実質的に影響を受けない。しかし木綿やアセテートのそれは他に比して多少劣るが実用上は支障ない。インク・ミルクおよび果汁のごときもシミを残さずに拭き去れる。ナイロン・テリレン・ガラスの織物にシリコンを施せば防水性は勿論空気をも透過せしめない。この目的にはシリコンゴムを用い、150°Cでベイキングを施す。この織物は電気工業的に特に絶縁用にはしばしば用いられる。また染浴その他に存する分散剤によつて生ずる泡を消滅ないしは抑制する作用もあり、100万分中2~3分あればよい。麻紡績においては静電気とワックスによつて生ずるリッキングアップなる現象があり、木玉にスライバーがまきつので普通10分ごとにワックスを溶去するので時間的にも経済的にも少なからず損害を蒙るのである。もし木玉にシリコン油を塗附すれば数時間は有効であるのみならず細い麻糸を紡績することができる。

皮革に対して通気性を保ち防水性を向上せしめることができる。すなわちシリコンエマルジョンによつて酢酸ジルコニウムを介して皮革に対し4%結合させる。熟する必要はない。エマルジョン法は防水性が100~1000倍向上し、火災および悪臭発生に対しこれを防ぐ作用があり、安全である。紙に應用すれば防水性は勿論吸湿性も半減し破裂強度は高まる。処理方法はエマルジョンに2度浸漬して乾燥し、80°C、2時間ベイキングする。ガラスに処理すれば(この場合はクロロシランを用いる)完全に水きりをよくし、水滴を残さないからマノメーター用チューブに使われる。また乗物の窓ガラス、反射鏡にも使われる。シリコンのもつとも重要な用途の一つはゴムである。これは200~250°Cの高温にもよく耐え、また0°C以下の低温にも充分屈撓性があるからである。かようなゴムはシリカや珪藻土のような耐熱性フィルタを配合し、過酸化ベンゾイルを触媒として作られる。航空機タービン機関・ガスカート・パッキング・ベルト・ケーブルの被覆・電気材料の緩衝体として優秀な性能を発揮する。また輸血管としても好性能を発揮する。天然ゴムは数回殺菌すれば使用に耐えなくなるがシリコンゴムは少くとも80回は使うことができるし、完全に透明である故血液の移動をも知ることができる。(繊維化学科 清水)



貧乏ひまなし

久保田 信

ある大学の土木の先生のお伴をして千葉に出張した。一夜茫洋として流れる大利根の畔、佐原市に投宿した。集つてくるもの皆その道の専門家または実務者で、酒を酌みかわすうち、なんとなしに話は専門的な方向に発展していった。悲しいかな門外漢の私には話の内容はおろか術語さえ耳新しいものが多く酒の方は一人で引受けてしまった様な格好になつたのであるが、話の中に利根沿岸の各地域の利水計画を合せると、数年後にはさしもの、あの大利根川の流水量の三倍に達し、水は枯れてしまうであろうということであつた。現に昨年は銚子から十数軒上流で取水した大利根用水地域は塩害を蒙つている。利根川が結氷して海水がそこまで逆流してきたからである。

天然資源に乏しいわが国で、比較的恵まれているのは水であるといわれている。しかし、その水だつて受入れ態勢の不備のために災害かロスとなつてその大部分が失われているのが現状だ。どうも人間は貧乏になると目先のことしか考えないものらしい。温泉だつて隣りの家より深く掘らなければ湯は出なくなる。みんなが競争する。そのうちにはとも倒れとなる。大利根用水の場合も同じだ。こんど巨費を投じて潮止堤をつくるそうだ。それは結構な話だ。しかし、肝心の利根川の水が枯れては切角の堤も無駄になる。このことは潮止堤だけの問題ではない。利水計画の一つ一つはきつと立派な計画に違いないと思う。問題は全体としての計画が適正であるかどうかだ。バランスが崩れると、ケ・セラ・セラの応急処置が必要となつてくる。その場その場の応急処置は時間と労力と資本の空費の最大なものだ。貧乏が忙しくなるのもそのためだ。

実行を伴わない計画は単なる空想にすぎない。首都圏整備法という結構な法律ができて、こういつた利水計画も含めて社会・経済・交通等全般にわたつて統制ある発展を企図しているそうだ。しかし

日本経済が、政府の定めた「経済目立五カ年計画」の方向に進んでいるとは考えられないような現状において、誰が未来の文化都市を確信するだろうか。日本人は総合計画や将来の見通しということが、いつも理想論の名のもとに隅に押しやられることにならされている。これこそ本当に日本と日本人が辿つたケ・セラ・セラの宿命だ。情ない話であるが。

(彦33)

小林庄二氏の死を悼む

吉田 館 後輩

昭和32年7月18日小林さんは遂に永遠に還らざる他界の人となられた。今は亡き氏の臨終に臨んだ私は今も尚氏の面影が眼の前に強く浮び忘れる事が出来ない。

小林さんは製糸29回卒業生として兵役の後昭和21年シルクのメッカ岡谷市の一隅に位する吉田館製糸所に現業長として勤務来、種々の艱難辛苦を乗り越え氏独特の熱と意気に加うるに優れたるえい智をもつて吉田館の地歩を築き上げ現在では押しも押されぬ名工務課長として本年一月より工場長代理に就任、これから愈々製糸技術者としての開花期に入らんとして居つた人であるだけに氏の死に対しては惜別の念が湧いてならない。戦後の製糸界の混頓たる期に入社し、軍需工場より復元の吉田館を背負つて立ち、日夜をわかつた機械の据付けに、工員の訓練に、又設備の改善に努められ、その功績は大なるものがあつた。私は昭和26年に吉田館に入社し、以来足かけ七年間故人と苦しみを共に、悲しみを共にし、又共に楽しんで来たのであるがその間故人の人柄から受けた人間的徳性、そして技術面より受けた技術者として生きる道は恐らく生涯における良き道しるべとなる事と信ずる。故人の遺徳については尽きぬものである病状を顧りみつつ偲びたく思う。29年のおそまき乍ら信州諏訪の地の春もたけなわならんとする5月に入りたまたま故人は腹痛を訴え盲腸ならんと或る医師よりの診断に従い注意して居つたが思いきつて岡谷病院に入院、直に手術を受けた所「こう丸腫症」なる極めて稀れに見る悪質なる病氣なる事がわかつた。医学書に依ると此の種の病氣は痛みを訴えず発熱もなく、唯こう丸は小豆粒大か大なるものは幼児の頭位の肉腫が出来て之が単なる腫物の場合とガン状の

ものがあるそうであるが故人の場合は肉腫にして之が治療法はこう丸を取去る事以外になく、従つて手術の際も右こう丸を切り去つた。しかし之は本人も良く知らず医師の言に依り肉腫を取除けばそれで良いものと思つて居つた。その手術の経過は出血多量で会社より輸血リレーで持ち直し、約一月程で退院、社宅で治療を続けた。然し同年中は何かとさつぱりせず十一月再び入院し手術の結果は右リンパ腺を伝つて肉腫が体内を上り居つた為その肉腫部を全部除去した。その時の経過は比較的良好にて約40日の静養で再び出社した。故人も種々医学書を研究し、又周囲も新薬の出現を待ち、故人自身としても現代医学の日新月歩を信じもう三年も経てば何とかなると口ぐせの様にかい乍ら病状も顧りみず研究に研究を重ね業績向上にのみ専念した。そして年も変り昭和30年故人の健康調整もさる事乍ら外見上も又本人としても肉腫除去の為か比較的調子は良好であつた。しかし医師の診断に依るレントゲン深部治療は必ず行い、又新薬の注射を続け常に細心の注意をもつて自己の健康状態を見守つていた。時折注射の副作用に依る食欲不振・睡眠不良・疲労の増加は訴えた事はあつたが本人の強い生に対する意欲の為か、或は事実比較的良好であつたのか病状は快方の如く思え小康状態を保つて居つた。しかし本人としては何か不安の病状があつたのか時折、新薬の出現のみ強く要望していた。

此の間故人の仕事に対する熱意と次々と作業面へ打ち込む情熱的改善意欲、対策等は、吾々同じに働いて居る工務人としても目を見張るばかりでその対策に歩を合せるにやつとの事であつた。いわゆるえい智にたけた故人の技術には到底凡人の及ばざるものがあつたと述懐せざるを得ない。一番印象的に吾々の眼前に残る在りし日の面影は此の間の情熱的なしるも信念と自信をもつて何事にも正面から取組み、そして対処すると云うあの旺盛なファイトと仕事と取組んで居る時の真けんな態度であつた。常に「吾々は毎日真けん勝負をして居るんだ」と言われた故人の言葉が今も吾々工務人のバックボーンを為している。

製糸業も色々の問題を包含し乍ら一年一年技術は常に進歩し、格付の改正、蘭検定の改正等と例年同じ事の繰り返しにみえるが技術は常に前進しなくては遅れ

をとつてしまふ。自動操糸機も漸く工業化の段階に入り吾々中小銀糸に於てもやがてその研究に真剣なるを要求される期に入りつゝあつた。故人は之らの問題についても常に数字をもつて対処し、唯徒に他人の物真似や又は不明確な点を残して居るがまあやつてみからと云う様な事は絶対にしなかつた。その代りに常に深い観察力と先の見通し、及びそれらのチャンスを見逃さないや云う技術者としてのツボを心得た無難のない行動は正に故人ならではと思わせる絶倫なる熟とえい智の賜であつたと思ふ。

此の仕事に対する異常な程の熱と努力は病気の進行に伴つて加速度的に高まつて行つた如く思ふ。尤も此の事は今こうして故人を偲びつゝ思い浮ぶ事ではあるが、即ち今にして思えば故人の生命のある限りに於て自己の為し得べき事を只管黙々と速度を早めつゝ実行した。凡人の五十年六十年とかゝる人生修業、技術業績を故人は短い三十七才の年月を以て立派に為し遂げたものであろう。之の状態が三十年三十一年前期と続いた。即ち病状が此の間は表面に出ず内部に於て恐るべき勢いで進行していたのであろう。三十一年の晩夏に入り社を挙げて全力生産に集中し成績も何とか向上しつゝあつた時故人は突然猛暑の為か倒れた。どうもおかしいと本人も気づいたのか早速医師の診断を受けザルコマイシンの注射を受けた。之の注射は全くの食慾不振に陥り、はき気を催すと云う副作用の強いものなる事は故人が良く語つてくれた。しかし此の病気には欠く事の出来ない予防薬なのである。此の注射を続けつゝ病をおして仕事に熱中した姿は今も尊きものとして吾々後輩への絶えざる叱咤となつて居り感謝している。八月益近くに故人は注射、レントゲンの治療を続けたが遂に全くの食慾不振に陥り何も喰べられずに三四日苦しき益中加療した。しかしそれも約一週間にして一応治り再び仕事を続けた。異常な研究心と闘志をもつて…

夏もすぎ秋もすぎやがて年もあけ昭和三十一年度になつた。寒さの厳しい諏訪にあつて通常人でさえ身に沁みる寒さであつたが故人は時々「自分の体がだんだん冷えて行つてしまふ様な気がする」と云う事を云つて居つた。そしてカイロを抱き又温泉に入り、会社の風呂は欠かさずに浴びては体を温めた。そして決して

仕事中には如何に自分の体が具合が悪くともその様子を他人に悟られるが如き態度は見せず、吾々に心配をかけない様に、他人に迷惑を及ぼさない様にとのみ気を配つていた。しかし吾々としても小林さんに無理を出来るだけかけない様にと仕事面でも又精神面にも注意を払い協力申上げ、病状の回復をのみ勝手からお祈りした。そして少しでも顔色のすくれない時は休んでもらう事にした。だが此の冬になつてからは本人も余程悪かつたのか具合が悪い時には自分から休んだ。正月十一日故人は工場長代理の辞令を受け、益々重責を帯びて仕事に対しては全く非の打ち廻のない采配ぶりを示され、吾々としては頼もしく又力強く命令に従い協力を誓つた。しかし病気には打勝てぬものか工場長指押三ヶ月目に又も苦痛を訴え、意を決して三月二十三日再入院手術を決行した。

三月二十六日午後二時より運命を決する手術が岡谷病院皮膚科の医師に依り執刀された。廊下に控えて奥様や関係者の心配にも拘らず運命の結果は肉腫の肥大が余りにも進行して居り、肺臓近くの肉腫が大静脈に癒着して居り之を切除すれば命に拘ると云う医師の執刀結果で止むなく切除かすにその儘縫つてしまつた。余ては此の間、そして運命は全てを断ち切つてしまつた。「お気の毒ですが医師として此れ以上の事は出来ません。以後は此の病状は絶対に本人には云わず病人に治るんだと云う希望を与え、又看護に出来る限りの手を尽して少しでも命を延してやる以外に方法はありません」と云う言葉を何と聞いた事だろう。全ての望みを失ひ支柱を折られ暗闇につき落された宣告を受けた関係者の心境…奥様の献身的な看護は奇跡のみを信じ日夜を分たず涙ぐましく続けられた。手術の傷口のみは治つても腫症による本人の痛みは何としても去らず苦しい毎を送つた。加うるに二十九年の手術経過と比較して当人は今度はどうも違うおかしと云つては看護の奥様を困らせた。しかし決して病状は語れず奥様は瞬時も側を離れずに全部取去つたとのみ涙をかくして力づけた。奥様の心境は云うに云えぬ悲しさのみであつたと述懐されたが吾々とても病人の前ではつとめて笑顔で力づけ蔭にて泣くのみであつた。旬日の后上諏訪日赤に多少なりとも予防の為レントゲン深部加療に移つた。以後四五月と絶好の新緑季にも拘らず梅雨時にも似

た重くするしい緊迫の病状が続いた。

レントゲンを照射する、注射を続ける。加療せば食慾不振になる、体は衰弱する、中止して体力を増強するのに又旬日を要する。その間腫症は益々勢いを増してふえてゆく。此んなみじめなして痛みの激しい病状が三ヶ月にも亘つてますます加速度的に進歩してゆく。吾々の見舞つた時はお気の毒にも安心させようと努められるじやさは涙なくして接しられぬ立派な態度であつた。しかし病魔は七月に入り体にくみを加え之が二三日で顔へ手へ、そして胸部腹部へ又脚へと移つて行つた。又日臭も激しくなり診断に依ると肺臓部へき物が廻り、片肺は全く作用を為さず為に呼吸困難にして之が急に窒息の恐れもありと云う事であつた。故人の此頃の苦しみ方は言語に絶し寝て痛く、起きて激痛ありて全く看護に当る奥様も身代りになつて少しでも楽にしてやりたい気持なれどどうにもならず唯痛ましく思うのみであつた。最後には酸素吸入を行い少しでも命脈を保たんと努力したのだが、そして臨終の日は朝からカンフルで脈を続けたのであつたが。

嗚呼小林さんは遂に最愛の若き奥様と愛児二女を残してしかも満三十七才の誕生日を迎えた翌日の三十二年七月十八日をもつて苦しみ続け乍ら永遠に還らざる他界の人となられたのであつた。小学二年生と未だ幼い可愛い子供の「父ちゃん天国へ行つちやつた」と無邪気に語る姿を見る時故人が偉大な技術者であり又良き家庭の主であつたればこそ何か眼がしらの熱くなるを禁じ得ない。最后迄「おれはもう一度良くなつてきつと工場の中を強く踏みしめて廻るんだ」と口ぐせの様に云つておつたあの生に対する強い執望と仕事に対する熱意と工場に対する愛着心は吾々技術に生きる工務人としては忘れる事の出来ない教訓である。

小林さんよ安らかに眠られよ。吾々は受けた訓育を何年かゝるともきつと身に沁みて残された精神の一部でも達すべく努力致します。製糸業の発展すべき現下に於て氏の如き稀にみる人格者を37才の若さで失つた事は誠に惜しみて余りある所であつた。ここに生前寝食を共にした後輩として御生前の記憶を辿り、氏の間性、技術者としてのえい智の一端をたたえて、心より同窓諸兄に悲しきお知らせを致します。

退 校 報 告

横井講師理学博士に

教養学科横井政時講師は名大へ博士論文を提出中であつたが去る7月26日、めでたく理学博士を授与された。その詳細については次号掲載の予定。

認定講習・単位獲得試験行わる

母校では小・中・高校教員の資質と資格の向上をはかため8月1日から9日まで教育職員免許法認定講習が、8月11日から18日まで教育職員単位修得試験が行われた。

両佐藤教授退官記念資金決算報告

両佐藤教授退官記念会発起人代表

蒲生俊興

両先生の御退官記念資金の募金については、多数発起人各位の御賛同を得て、昨年5月募金趣意を会報に発表しましたが、以来会員の各位並に関係者の方々から、多数の応募を得て、幸に所期の成果をおさめる事が出来ました。御贈金者については、その都度領収書に代えて会報誌上で報告して参りましたが、去る7月末日を以て一応打ち切りにしました。

尚資金の一部を以て肖像写真二面宛を作製し、一面宛贈呈し一面宛は先生の御了解を得て学内に掲載して永久に両先生の徳を偲ぶことに致しました。そして、8月5日両先生に御来校を願い学内及び市内の発起人相寄り、内輪ながら肖像写真並に記念品料贈呈の式を挙行しました。贈呈式の模様については別記事を御覧下さい。

ここに決算の報告を申し上げると同時に、発起人並に醸出者各位の御協力に対し感謝申上げる次第であります。

決算書

佐藤利一先生

取 入 77,200円 (221人)

支 出 6,625円

内訳 写真二面代 5,250円

事務費 525円

贈呈式費用 850円

差 引 70,575円

佐藤春太郎先生

取 入 79,600円 (230人)

支 出 6,625円

内訳 写真二面代 5,250円

事務費 525円

贈呈式費用 850円

差 引 72,975円

尚決算後両先生への醸金がありました。これが追而発表致します。

佐藤(利)(春)両先生退官記念品贈呈式の記

山口定次郎

昨春佐藤(利)(春)両先生御退官の後、私達有志は両先生退官記念会を組織して募金をいたし、記念品を贈呈し、いささか謝恩の微意を表したいと思いこの企を計画しました所、幸に旧職員も加え多数会員各位よりの、心のこもつた御応募があり、まことに喜ばしく発起人の一人とし深甚の感謝を申し上げます。記念品贈呈方法については、かねて、発起人にお任せ願いたいと申しておきましたが、おりにふれ、多くの方々の意見等を参考とし、主として学内発起人において協議し、大部分を金円にて、又一部を肖像写真として贈呈することに決定しましたので、今春から上田市内小林写真館に依頼し写真の製作にかり、漸く先般出来上りましたので、8月の吉日を卜して贈呈式を挙げることになりました。

記念品贈呈の式は8月5日、学内会議室を会場とし午後3時開式しました。両先生は幸に上田市内におすまいになつておられますし、炎暑にもかかわらず頗る御元気で御出席下さいましたことは何よりでした。参列者は主として地元の発起人(市内・学内職員及び同窓生)で約30名余。先づ発起人代表蒲生教授から、記念品贈呈の辞をのべられ、記念金各7万円余りと、肖像写真(略全紙版の大きさで、実大より僅かに小さい胸像、額ぶちは広巾でクリーム色)を呈上しました。之に対して、両先生からはそれぞれ、御鄭重な御挨拶があり、御生活の現況、心境、今後の抱負など語られたが、まこと

に心強い限りでありました。次に学部長伊藤先生からの祝辞があり、意義ある儀式を終了いたしました。



式が終つてから、簡単ながら、ピーヤパーティを催し、両先生の福栄をお祈りました。野口千曲会理事長、猪坂直一氏、三浦教授、林教授の祝辞等乾杯の間にテーブルスピーチが次から次と行われ最後に、学部長の音頭により両先生の万歳が三唱されました。両佐藤先生共大変およろこびで、発起人をはじめ千曲会員諸兄にくれぐれもよろしくとのことでありました。

尚写真(上掲のもの)は各二面を作り、一面は呈上しましたが、他の一面は、学内の何処かに掲げ、長く師徳をしのびたいとの私達の願いにより、厚釜しく頂戴することになりました。



— 贈呈式の一駒 —

当日参列者次の通り

- 主賓 佐藤利一先生 佐藤春太郎先生
- | | | |
|-------|-------|--------|
| 伊藤 武男 | 三浦乾太郎 | 柳沢 延房 |
| 長島 栄一 | 猪坂直一 | 母袋忠右エ門 |
| 工藤 栄民 | 蒲生 俊興 | 倉沢 美徳 |
| 林 貞三 | 野口新太郎 | 荻原 清治 |
| 田口 亮平 | 小林 尚一 | 町田 博 |
| 坂口 育三 | 関 博夫 | 竹田 寛 |
| 小山 長雄 | 松尾 卓見 | 北条 舒正 |
| 中原 武 | 清水 周 | 田中 茂光 |
| 桜井 善雄 | 押金 健吾 | 若林 茂一 |
| 中島 暹 | 山口定次郎 | |

千曲会誌知板

母校五十周年記念事業計画 準備委員決まる

標記委員の選出については別掲本日誌の通りであつてこの度理事長が依頼された。委員の顔ぶれは次の通りである。池田正五郎(北海道) 和田敦(北奥) 高橋義三郎(宮城) 栗原章(山形) 宇治美春(福島) 船後勇平(茨城) 高橋汎一(栃木) 黒沢袈裟彦(群馬) 武田一好(埼玉) 鈴木教吾(東京) 梅沢万次郎(神奈川) 秋山利夫(越佐) 新野武雄(北陸) 白井要範(福井) 中村広(北佐久) 野沢司馬作(南佐久) 井沢喜三(上小) 茂原重雄(更埴) 荒井猛(北信) 鈴木玄九(安筑) 島倉督造(諏訪) 石塚浪之助(竜川) 山田斧一(岐阜) 降旗孝(静岡) 土屋勲(東海) 篠田平三郎(三重) 星田繁(近畿) 大塚重蔵(兵庫) 馬場長市(三丹) 上小巖(鳥取) 黒岩覚(島根) 土岡老郎(山陽) 宇根山哲夫(四国) 富崎清治(愛媛) 緒方茂之助(香川) 福島鋼治郎(北九州) 深迫明(熊本) 中島茂(宮崎) 中山吉二(鹿児島) 母袋忠右エ門(上小) 竹内善吾(上小) 小口宗久(諏訪) 土屋茂一郎(長野) 佐藤一(上小) 江野村一雄(山陽) 伊藤要次郎(上小) 小出倫平(更埴) 笠原義昭(上小) 江口晴雄(近畿) 田島信雄(東海) 萩原秀治(上小) 宮島国雄(上小) 川上保人(上小) 西山市三(近畿) 武田兵助(上小) 久保田昌人(上小) 碓氷茂(群馬) 馬場武(東京) 市川文夫(上小) 猪坂直一(上小) 小林運美(東京) 大池登(神奈川) 大山融(南佐久) 香山清和(上小) 小山西(群馬) 桜井吉利(更埴) 齊藤義臣(東京) 清水良一(東京) 宮前邦男(東京) 宮城博(北信) 山崎寿(安筑) 萩原清治(本部) 田口亮平(本部) 中島暹(本部) 北条舒正(本部) 町田博(本部) 山口定次郎(本部) 野口新太郎(本部)

以上78名の各位には、本事業の重要性

を御認識下さつて、充分御研究おきいただき度く存じます。

尚第一回委員会は8月24日(土)午後2時開催の予定であります。(昭32. 8. 7)

就任の御挨拶

若林 茂 一

この度千曲会の事務をおあつかりする事になりましたについて一言御挨拶申し上げます。

私は故あつて今春、職を引いて家居しておりましたところ、野口理事長その他母校の先生方から、久保氏退職死亡後、又別府君退任後、千曲会事務の担当に欠けるところがあるので、この仕事と引き受けないかとのお話がありました。いろいろ考えた結果、お引き受けする事に決心して、6月の初めから、千曲会事務室に出勤しております。

私の履歴は、大正14年春卒業(蚕12回)してから、佐藤春太郎先生の教室に、当時の助手として、4年2ヶ月お世話になりました。昭和4年5月、長野県更級農学校へ転出しましたが、以来27年10ヶ月農業教育に専念して参つたと云うのがその大略です。

学生時代は兎も角として、助手4年の間は、千曲会が発展の途上にあつて、潑刺として動いていた時代で、私達若い卒業生も 校内幹事ということでいろいろの仕事を手伝つた事を憶えています。

その後直接には関係する事がなくて過して参つたのですが、この27年間、千曲会は社団法人の仕組みを確立するとともに、非常な活況を呈し、その組織の強さに於て、又その事業の価値に於て、全口屈指の同窓会である事を誇つたのであります。

私の就任の際に當つて、野口理事長から過去の千曲会に比して現在の千曲会の姿と、これを往年の姿にもとすべく同窓意識の高揚、支会と本部との組織の強化、及び会費納入率の向上を月途とし、その基盤の上に、広く繊維界に貢献すべ

き本会事業を活性化する事を期している。そして又当面の重大問題として、且つは本会の団結力の試金石として、五十周年記念事業の成功を願つている、という事を私に話されました。

私も亦全く同感です。

私の役目は、これ等の目的を達成するために、本会運営の方針に従つて事務の面から、能率の効果的に事を運んで行くことにあると考えています。

ただ、憾らくは、浅学非才、しかも既に老境に入つたとも申すべき年令に於いては、私の過去の経歴が教育界という範囲を出なかつたために視野が狭い惧れを感じている事等、まことに適任とは考えおりませんが、出来るだけ努力する覚悟でいます。会員各位の御指導御鞭撻をお願いする次第です。

事務に入つて見て、学内や千曲会の事情がわかるにつれて、私には私なりにいろいろの感想もあるわけですが、しかしその内の最も簡単な1つは、会員の千曲会本部を訪れる人が少ないという事です。本部(会館)の位置が本館の陰にある事も本部の存在が忘れられがちなる理由かも知れませんが、兎に角、会員の各位は、出来るだけ機会を作つて、母校を訪ねていただき度いこと、又その折は必ず本部事務所にお立ち寄りいただき度いと存じます。いろいろお話を承つたり又こちらの希望も申上げたりして行く内に、自ら千曲会に対する愛憎が、ひいては母校に対する関心が高まつて行く筈と思ひます。

も一つお願いしたいのは、千曲会報によく眼をとおしていただき度いことです。会員各位が案外、会報に無関心でいられるのではないかと、これは非常に残念な事です。会報を月刊で発行していることは、現在としては、本会として最も大きな仕事の一つであり、編輯にあたる委員のエネルギー消耗も並々ならぬものがあります。大論文を熱読頭味していただき度い事は勿論ですが、同時に会員連絡事項にも充分御注意下さい。連絡を無視されると一番困るのは事務室です。以上お願いをかねて御挨拶まで。

会費を納めて下さい

32年度から会費が300円になりました。未だ御存知でない方も多いので改めて御知らせします。

尚、会費の納入についてはなるべく次の方法によつてお納め下さい。(1) 支会で会費をとり纏めて下されば交附金(還付金)をさし上げます。(下表参照) 交附額を差引いて本部へ御送金下さい。(2) 振替御利用の方は、長野 6243 又は 東京 43341 で。(3) 昭和25年にさかのぼつて未納金を納めて下さる方は分納でも結構です。

会費と交附額一覽表

項目	年度	昭和24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年
会費		100円	200	200	200	200	200	200	200	300
交附額		1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	60円	60	60	100

会 員 動 静

(1967.7.29現在)

頁数	氏名	卒回数	新住所
26	寺崎 喜美	糸 23	秋田県本荘蚕業指導所(本荘市)(住)本荘市出戸町
27	上原 教央	紡 28	東京麻糸川崎工場(川崎市久本町30)
"	島倉 久雄	蚕 36	長谷川合名会社染川出張所(福島県梁川町田町)(住)東蔵腸郡小松町駅前通り
28	伊藤 力三	蚕 17	宮城県伊具農蚕高校校長
38	青木 久夫	学糸 5	丸興製糸佐野工場(栃木県佐野市植野)
43	栗林 茂治	学糸 5	農林省蚕糸試験場前橋支場(前橋市岩神町355)
44	小林 藩枝	教 7	佐久製糸KK(南佐久郡中込町)
45	関口幸四郎	糸 17	(住)東京都板橋区蓮根1の18
46	田中 信二	学糸 4	モーリン化学工業KK(館林市成島富士北)
50	吉野 史郎	学糸 1	片倉工業・東武製糸所(埼玉県加須市上三俣385)
60	有本 実枝	糸別 4	住友海上火災保険会社(住)杉並区馬橋4の478
58	菰田 得一	糸 3	自宅、千葉県夷隅郡千町村能実907
63	上原 昂	学糸 5	株式会社三葉製作所本社業務部購買課(品川区小山5丁目88)
65	木内 保平	糸 2	内外機械KK取締役社長(杉並区井荻3の54(佳芳閣内)・電鉄窪(39)9552)
67	児玉 和巳	化 7	埴科郡坂城町新町
72	富岡 秀	糸 16	(住)杉並区高円寺2の92
75	橋本 治道	化 9	第一工業製菓KK・仙台営業所(仙台市同心町通45)
85	今村 覚治	糸 22	片倉工業・神戸出張所(神戸市生田区播磨町取引所ビル内)
"	猪坂 憲郎	紡 26	三菱商事神戸支店生糸部(神戸市生田区海岸通神港ビル内)
86	太田 正	糸 35	片倉工業・繊維研究所(大宮市)
89	寺西 俊雄	糸 37	東洋ナイロン編物KK(富山県東礪波郡井波町)
91	山浦 克巳	糸 23	丸興製糸・岡谷工場長(岡谷市3564)
95	柳沢 六平	紡 16	呉羽紡績庄川工場(富山県射水郡大門町)
98	奥村 好一	糸 8	死 亡
102	新井宇之輔	蚕 15	長野吉田高校(長野市吉田)
104	武重 徳子	教 4	中野実業高校(中野市)
106	羽場 義則	蚕 22	(旧姓橋詰)少年保護鑑別所(長野市三輪四ツ石)(住)長野市桜枝町
"	米沢弥吾夫	蚕33后	丸子実業高校(小県郡丸子町)
"	丸山 時子	学紡 1	北佐久志賀中学校
114	坂本 勝三	蚕 23	下高井農林高校(下高井郡木島平村)
121	山浦 俊美	蚕33前	小県東部高校(小県郡東部町)
124	小平 波	旧 教	(旧姓堀内)(住)北佐久郡東村駒込
127	神林 至	紡 19	塩川中学校(小県郡丸子町大字塩川)

頁数	氏名	卒回数	新住所
128	窪田 衛二	学糸 4	丸子実業高校(小県郡丸子町)
"	小林 茂男	" "	" "
138	横山 忠夫	蚕 22	小県蚕業高校(上田市)
139	浦沢 一裕	学糸 4	更級農業高校筑北分校(東筑摩郡麻績村)
142	柳島 純雄	農 1	更級農業高校(更級郡篠ノ井町)
147	宮沢喜久男	学糸 4	飯山南高校太田分校(飯山市)
"	永井 昭雄	農 4	同上 外縁分校(飯山市)
149	西沢 忠男	紡 25	上水内北部高校(上水内郡三水村)
151	池田 京二	化 9	須坂西高校(須坂市)
"	井上 功一	紡 29	兵庫県州市筑地町乙467
152	大屋 正尚	化 9	日本合成繊維KK大垣工場(岐阜県大垣市本今町)
154	原田 胖	学糸 5	北信生糸KK(長野市中御所2の11)
155	中沢 一	同上	同 上
159	市村 亘	学糸 4	長野県満検定所(松本市庄内町)
160	桑沢 千振	化 6	(住)伊那市伊那部
164	今井 圭一	蚕 29	諏訪実業高校(諏訪市)
165	長谷川 潔	糸 38	(住)東京都杉並区馬橋3の355 太田武方
"	高橋 順	紡 22	呉羽紡績庄川工場(富山県射水郡大門町)
169	小泉 昭二	化 6	自営、小泉製作所(岡谷市下浜5184 電、岡谷3329番)
"	小林 庄二	糸 29	死亡(32年7月18日)
172	宮坂 琢郎	化 4	岡谷竜上高校(岡谷市)
"	丸山 栄	学糸 3	須藤製糸・横浜出張所(横浜市中区北仲通蚕ビル内)(住)東京都豊島区日之出町2の247鈴木修方
173	小沢 正一	糸 29	岡谷市竜上高校(岡谷市)
"	高坂 巖保	紡 8	赤穂高校南向分校(駒ヶ根市)
186	小宮山 尊	学紡 4	柚竹興業KK(名古屋市中区木挽町)
191	曾我 晏三	学糸 5	加茂蚕糸共同組合(愛知県拳母市小坂夏焼4)
195	牧野 春雄	糸 10	(住)愛媛県北宇和郡吉田町本町3丁目
196	吉野 健吉	蚕 4	西尾市教育委員会教育長(住)西尾市矢場町69
198	岡本 克巳	学糸 5	平田紡績KK研究室(四日市市野田622)
203	是 金 寛	糸 32	日本レイヨン宇治工場ナイロン製造部第二課(宇治市)
204	和田 貞政	紡 10	福井繊維製品検査所(福井市井手町52)
208	辻本 豊	化 4	大阪市阿倍野区天王寺町南1丁目35
217	宮沢 安雄	紡 26	倉毛紡績鈴鹿工場(三重県鈴鹿市庄野町羽山3000)
227	上垣内武彦	紡 8	東海毛糸紡績KK(大垣市外神戸町)
232	芦谷 鉄郎	蚕 33	郡是製糸KK・鳥取乾繭場(鳥取市富安198)

本 会 日 誌

○ 7月13日(土) 理事会(拡大役員会)が開催され、次の事が決った。

議題 1. 五十周年記念事業計画準備委員会について。

その構成については各支会から1名宛39名(選任は支会に一任する)その他支会選出委員と同数の委員を出す。その内20名は理事全員がこれにあたり、残り19名については出来るだけ与論を代表し得るような人選を行う(その人選は理事長に一任する)

第1回委員会は8月下旬に開催する。

議題 2. 今年度予算の執行について。出来るだけ出費を節約すること。尚会費納入率を向上させて収入を増すこと出席者

小山清(群馬) 桜井吉利(更埴) 山崎寿(安筑) 宮城博(北信) 齊藤義臣(東京) 香山清和(上小) 神林浩三(長野) 和田晋(上小) 野口新太郎(本会) 中島 進(本会) 町田博(本会) 田口亮平(本会) 山口定次郎(本会) 北条舒正(本会) 井沢喜三(上小) 北条五郎右エ門(上小) 今井甲子男(本会) 小山長雄(本会) 坂口育三(本会) 白井美明(本会) 関博夫(本会) 竹田 寛(本会) 田中一行(本会) 中原武(本会) 野沢潤子(本会) 松尾卓見(本会) 美斉津利正(本会) 山崎管録(本会) 蒲生俊興 林 貞三 八木誠政 外に碓井茂(群馬)

尚会議の前に碓井茂氏(紡3)から南米に関する講話を聴いた。

○ 8月5日 予てから本会有志發起人によつて募集中であつた佐藤利一、佐藤春太郎先生の退官記念資金について、母校会議室に於て贈呈式が盛大に行われた。

○ 本会副理事長小林運美氏は英国サットンパークに開催のボーイスカウト創設50年記念世界ジャンボリー(8月1日~16日)並びに同国際会議及びレバノン国ペイルートルに開かれる世界青年会議農業会議に(8月25日~9月2日)出席のため、去る7月26日S A S機北極廻りにて出発した。

会 費 領 収

(8月5日現在)

○ 入金金完納者

溝口 信之 (紡大4)
関島 郁夫 (糸大4)
降旗 剛寛 (蚕大3)

金400円 芦谷 哲郎(蚕 33)
高橋 汎一(蚕 8)
笠原 重亀(糸 12)
瀬在袈裟一(化 5)
関 与志雄(紡大2)

○ 昭和32.33年度会費納入者(600円)

笠原 重亀(糸 12)

金200円 溝口 信之(紡大4)
関島 郁夫(糸大4)
降旗 剛寛(蚕大3)
大屋 正高(化 9)
藤森 朋美(糸 20)
鈴木 忠雄(蚕 32)

○ 昭和32年度会費納入者(300円)

芦谷 哲郎(蚕 33)
溝口 信之(紡大4)
関島 郁夫(糸大4)
降旗 剛寛(蚕大3)
木藤 半平(化 4)
高橋 汎一(蚕 8)
湯沢 重敬(糸 9)
林 コシ子(教 7)
大泉 英明(農 2)
西沢 政人(蚕 23)
西沢 尉(糸別1)
武井 顯三(糸 25)
清水 洸(蚕 20)
池田 正三(糸 18)
平尾 孝平(蚕 19)
金沢 勇(糸 17)
飯島 暢(農 2)
北原 幸治(蚕 26)
横山 忠夫(糸 22)
神津 昭(糸 36)
市川 秀郎(農 3)
竹内 善吾(蚕 14)
久保 孝(化大2)
樋村 忠義(蚕 14)

武井 登(糸 30)
相沢寿美子(教 5)
田原 盛行(蚕大2)
竹内万二郎(糸 16)
西沢 正一(蚕 22)
宇治 義春(紡 7)
田中 四郎(糸 19)
土屋 博士(紡 30)
水野 方邦(化 2)
茅野記念雄(化 8)
角替 超夫(糸 15)
中村甲子男(糸 32)
若林 稔(糸 37)
柳沢 晋(蚕 37)
榎内 明(糸 28)
倉島富士子(糸別3)
中村 輝子(教 5)
把田 英司(蚕 36)
阿部 和(糸 13)
樋村 忠義(糸 14)
久保 孝(化大2)

○ 未納会費納入者

金1,500円 尾峰 守雄(紡27)
金1,000円 中山威一郎(糸36)
金600円 湯沢 重敬(糸 9)
藤森 徹雄(紡 24)

お わ び

会報No. 66(6月号)12頁 退官記念資金受領報告のうち金300円田口亮(蚕17)とあるは田中亮(蚕17)の誤りにつき謹んで訂正いたします。(係)

編 集 後 記

○ 暑い暑いといいながらもここ信州では例年にくらべかなり楽な夏でした。新聞では今年の稲作は昨年につづいて豊作型と伝えています。

○ 学内は夏休みで、飼育や実験にいそむ学生の姿もチラホラ、至つて静かでした。こういった環境のなかで、先生方の認定講習や単位修得試験、さては某新聞社主催の一般市民のための文化講座などが行われ、卒業生の方々もかなり見えていました。

○ 秋口ともなれば毎年のことながら、就職運動のたけなわとなる頃です。先輩各位の就職に関する卒直な御意見を、後輩のためにお聞かせ下さい。又、会員諸兄の近況もどしどしお知らせ願います。

会友の皆さんの御健康を祈ります。

(中原記)

編集理事 田口 亮平 編集総務 小 山 長 雄
部 員 石 川 博 西山久雄 美 濟 津 利 正 清 水 周 柳 沢 幸 男 中 原 武